

合格体験記

【島根大学 教育学部学校教育課程】

僕はこの島根大学教育学部学校教育課程 I 類学科を第 1 志望で受験しました。しかし元々今のように教育職に就きたいという夢が明確にあったわけではなく、深くは考えずに、これまでの学校生活の楽しさから、苦勞もあるに違いないが教師になれば楽しいんじゃないかという考えがあり、卒業しても先生と生徒の間にある繋がりに憧れていただけでした。そこで親と進路の話をする中で「やりがいの感じられる仕事をしたい」という考えができ上がり、担任の先生との、教師を目指す進路面談が始まりました。すると担任の先生がクラスの教師志望の人を集めて、毎日の SHR を順に回して行うという企画をしてくださいました。毎日ド緊張しながら前に立っていましたが、自分が話すときにみんなが自分に注目してくれたり、言ったことに笑ってくれたり拍手をしてくれたりすることで、人前で話すことの楽しさを身にしみて感じ、人前で話すことが好きだという自分の長所に気づくことが出来ました。今思うとこの経験は、教師を真剣に目指そうと考えるようになった 1 つの大きなきっかけだったと思います。受験生の皆さんは、自分の夢がはっきりと決まっている人はもちろん、ぼんやりとしたどんな小さなものであっても、先生にそれを打ち明けられるようにしてほしいと思います。先生は必ずその夢を応援し、その手助けとなることをしてくださいます。将来の夢は、経験を経た考えがないと確定させることは難しいと僕は思います。勇気を出して、話してみてください。

これから皆さんは進路面談で担任の先生との衝突を繰り返すことになるだろうと思います。僕の場合は、小学校か中学校か、中学校なら理科か数学か、理工学部に行くか教育学部行くか、滑り止めに私立を受けるか受けないか、などの衝突が起きました。どの選択肢でも後者が僕の意見なのですが、そのすべてで先生は僕の意見に対して反論を展開しました。それでも僕は自分の意見を曲げることなく、覚悟をもって説得し、僕の中にあった教師像に向かって先生が背中を押してくださる形で進路を決定させました。こういう場面で先生の言うことに従って自分の考えを改めるのも、正しい場合もありますが、もちろん 1 つの手ですが、即鵜呑みにしてしまうのは間違いだと思います。自分の考える進路と先生の考える進路を衝突させ、親や他の人の意見も参考にしながら、練りに練った自分なりの進路を決定させてください。そうやって導き出した進路だからこそ、僕は最後まで自信と覚悟を持って受験を闘うことができたと思っています。ここで誤解してほしくないのですが、当然、覚悟や熱意だけでは超えられない壁は存在するわけで、それが学力であれ人間性であれ、先生が生徒の進路にある程度の自信を持たないと、先生も後押しはできません。これは前に言ったことと矛盾するのかもしれませんが、どうしてもその進路がよいのに、それを先生に反対されてしまった場合、どうしたらいいのか。それは、行動で示し、認めてもらうことが必要です。それを目指す学力が足りないなら成績を上げてみせる。自分に足りない人間性が見つかったなら、日々の生活や学校行事などで自分なりに意識して改善しようと試みる。それがきっと、先生の考えをも変えられる力になると思います。

部活動との両立ですが、現時点で部活をしている人は最後までやりきったほうが良いと僕は思います。今まで 1 年生からずっと続けてきた部活を辞めて、できた時間で目いっぱい勉強に打ち込めるかということ、それはかなり難しいことだと思うからです。いきなり 1 日 10 時間勉強なんてできません。そんな無茶をするよりも、引退したらハードな勉強にとりかかれるように、毎日の授業を大事にしたり、部活をしながら空いた時間をちょっとずつ勉強に当てて徐々に勉強時間を増やしたりすることを勧めます。僕はバドミントン部を引退までやりきりましたが、やっていてよかったなと本当に感じています。そこで出会った仲間と一緒に、後悔の無い高校生活を送ってください。

ここからは、僕の受験勉強を紹介します。1 つ目は、教科担当の先生を信頼することです。受験勉強ではこれがなによりも第一だと思います。具体的に何をするかというと、先生が出した宿題はしっかりしてるとか、先生がこんな勉強をしたらいいとアドバイスしてくださったことは試してみるだとか、そういうことです。自分で勉強方法をあれこれ悩む前に、まずはそこから始めてみてください。

2 つ目は、模試の見直しをすることです。間違った問題だけでなく、正解した問題も含めてすべてをもう一度解き直すようにしていました。数学を例に挙げて 1 つ言っておくと、わからない問題は解答を見ながらでもいいので一度解ききることを大事にしていました。でもそれは解答をただの手作業として丸写しするのではなく、ひとつひとつをしっかりと理解しながら行うことが大前提です。僕の受験勉強はこの 2 つがほぼすべてです。これらのことはどちらも担任の先生が常に言っていたことなのですが、この 2 つのことができれば、成績は上がると確信しています。

僕自身も、夢の中学校数学教師に向かって頑張りながら、新 1・2・3 年生の皆さんの希望進路実現を心から応援しています。頑張ってください。

【京都府学校事務職員】

私が学校事務員になりたいと思ったのは高校 1 年生のときでした。もともと中学生の頃から、母が事務の仕事をしている姿を見てきたこともあり事務の仕事に興味があったのですが、多くの事務の仕事がある中、学校で働くことを選んだのは学校の仕事に関わりたかったからです。自分がこれまで楽しく学校生活を送ることができたのは、友達や先生方や学校に関わる全ての人に支えてもらったからです。今度は、支えてくれた方々のように私もサポートできる存在になりたいと思い、将来は学校事務職員になりたいと思いました。

私が公務員試験に向けて動き始めたのは 2 年生の 2 学期からですが、本気で勉強し始めたのは 3 年生の夏休みからで、本当に遅いスタートでした。まず、試験の内容を調べることから始めました。この時はじめて知ったのですが、試験は教養試験と適性試験、作文、面接とすごく多くの種類があり、また教養試験については科目が 16 科目もあり何から手をつけていいかわかりませんでした。1 人でやっても進むはずがなく、その時は部活動のことばかり考えており、ほぼ毎日練習をしていたので時間も限られていて、かなりの時間を無駄にしていました。

やはり自分の力では限界があると思い、3 年生の夏休みから専門学校で行われるセミナーや京都府が主催する説明会に参加したり、北部で行われる学校事務職員体験に参加して、実際に働いておられる方々の話や普段している仕事を体験させていただいたり、いろいろな事に積極的に参加しました。この経験をしたことで私の中でエンジンがかかったと思います。ここから本気で勉強し始めました。私は家で集中することができないし、集中力も短いです。それで、夏休み期間はだいたい図書館で勉強していました。3 時から 6 時までの 3 時間だけ、セミナーで教えてもらったところをひたすら復習して定着できるよう勉強しました。作文試験は京都府では 3 つの語を必ず使って書くという課題が出題されているので、私は最初から部活動と話題を決めておいてどんな語がきてもいいように準備しておきました。

面接試験は集団面接と個人面接があります。集団面接では少し変わった質問が出されます。それで、思ったことを素直に、そして筋が通るように心がけました。個人面接は自分のことをよく調べました。友達や親に自分の性格を聞いてみたりして、自分自身の知らない部分を見つけて学校事務員になって何がしたいのか、どんな存在になりたいのか、自分がその学校にいることでどんなメリットがあるのか、などたくさん探しました。どちらの面接試験でも第一印象が大切なので、ドアを開ける前から笑顔でいるようにし、私は声が小さいので自分の大きいと思う声の大きさよりさらに大きい声を意識しました。

私は試験の前の月に受けた模試は E 判定でほとんど可能性が感じられませんでした。いままでの最高でも D 判定で、自信が全く持てずにいました。それでも頑張ることができたのは、いつも私を信じて応援してくれる人がいたからだだと思います。また、部活動での経験が私の中では一番大きく影響しています。部活動で我慢強さや努力し続ける力を身につけることができたことで、この受験を乗り越えることが出来たと思います。

私が合格することができたのは受かるイメージを持っていたからです。自分がどうなっていて欲しいか、イメージすることで楽しく試験を受けることが出来ました。ですから、どんなにつらいことでも良いイメージで楽しいことに変えて欲しいと思います。春から学校事務員としてサポートできる存在になれるよう頑張ります。